

## 令和5年度病虫害発生予報第7号（11月予報）概要表

令和5年10月25日  
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 麦類の播種前防除対策</u>	/	/
(1) コムギなまぐさ黒穂病		
(2) 黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
(3) オオムギ縞萎縮病		
(4) オオムギ斑葉病		
(5) シロトビムシ類		
<u>2 大豆</u>		
(1) 吸実性カメムシ類		やや多
<u>3 きゅうり（夏秋栽培）</u>		
(1) ベと病		少
(2) うどんこ病		並
(3) 褐斑病		やや少
(4) 退緑黄化病		多
(5) 黄化えそ病		多
(6) コナジラミ類		多
(7) アザミウマ類		多
<u>4 ブロッコリー（秋冬栽培）</u>		
(1) ベと病		並
(2) ハスモンヨトウ		多
(3) オオタバコガ		多
(4) シロイチモジヨトウ		多

### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) さび病		並
(2) 黒斑病		やや少
(3) ベと病		やや少
(4) シロイチモジヨトウ		多
(5) ネギアザミウマ		多
(6) ネギハモグリバエ		多
<u>6 いちご (本ぼ)</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) 炭疽病		並
(3) ハダニ類		並
<u>7 茶</u>		
(1) カンザワハダニ		並
(2) ツマグロアオカスミカメ		やや少

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並\*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和5年度病害虫発生予報第7号（11月予報）

令和5年10月25日  
埼玉県病害虫防除所

1 麦類の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
コムギ なまぐさ 黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> <li>種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。</li> <li>土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付けを控える。</li> <li>オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では、麦種を転換する。</li> </ul>
黒節病	<ul style="list-style-type: none"> <li>「病害虫診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考に、適期防除を実施する。</li> <li>自家採種種子を使用する場合は、必ず種子消毒し、播種時期を遅らせる。</li> </ul>
縞萎縮病	<ul style="list-style-type: none"> <li>播種後の土壌水分が多く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施し、播種適期内で播種を遅らせる。</li> <li>オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。</li> </ul>
オオムギ 斑葉病	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。</li> <li>遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。</li> </ul>
シロトビムシ 類	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。</li> <li>遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。</li> </ul>

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

2 大豆

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
吸実性 カメムシ類	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10月中旬の発生量：やや多</li> <li>□県予察ほ場の発生量：やや少（-）</li> <li>□気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミナミアオカメムシ及びカメムシ類については、「病害虫診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考に防除対策を実施する。</li> <li>・ミナミアオカメムシは莢が黄化しても吸汁するため、多発している場合は収穫前日数に注意して薬剤による防除を実施する。</li> </ul>

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

### 3 きゅうり（夏秋栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	少	○10月中旬の発生量：少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。 ・着果負担による樹勢低下は発生を助長するため、注意する。
うどんこ病	並	○10月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・着果負担による樹勢低下は発生を助長するため、注意する。
褐斑病	やや少	○10月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（-）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・着果負担による樹勢低下は発生を助長するため、注意する。
退緑黄化病	多	○10月中旬の発生量：多 □10月のコナジラミ類の発生量：多（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
黄化えそ病	多	○10月中旬の発生量：多 □10月のアザミウマ類の発生量：多（+）	
コナジラミ類	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
<b>【共通注意事項】</b> ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

#### 表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並\*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・多\*\*\*：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

#### 4 ブロッコリー（秋冬栽培）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。
ハスモンヨトウ	多	○10月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」( <a href="#">参照2</a> )を参考に、収穫前日数に注意して薬剤による防除を実施する。
オオタバコガ	多	○10月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・8月15日に発表した「注意報第3号」( <a href="#">参照3</a> )を参考に適期防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」( <a href="#">参照2</a> )を参考に、収穫前日数に注意して薬剤による防除を実施する。
シロイチモジヨトウ	多	○10月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（+）	・9月25日に発表した「注意報第5号」( <a href="#">参照4</a> )を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」( <a href="#">参照2</a> )を参考に、収穫前日数に注意して薬剤による防除を実施する。
<b>【共通注意事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：注意報第3号「野菜類・花き類・ダイズ、オオタバコガ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-3.html>

参照4：注意報第5号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-5.html>

#### 表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・**多\*\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 5 ねぎ（秋冬栽培）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	
黒斑病	やや少	○10月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（－）	
べと病	やや少	○10月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	
シロイチモジヨトウ	多	○10月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月25日に発表した「注意報第5号」（<a href="#">参照4</a>）を参考に適期防除を実施する。</li> <li>・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（<a href="#">参照2</a>）を参考に、薬剤による防除を実施する。</li> </ul>
ネギアザミウマ	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病虫害診断のポイントと防除対策」（<a href="#">参照1</a>）を参考に防除対策を実施する。</li> </ul>
ネギハモグリバエ	多	○10月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害の特徴が異なるB系統が発生しているため、令和元年度特殊報第1号「ネギハモグリバエのB系統の発生について」（<a href="#">参照5</a>）を参考に防除を実施する。</li> </ul>
<p><b>【共通注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照4：注意報第5号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-5.html>

参照5：令和元年度特殊報第1号「ネギハモグリバエのB系統の発生について」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/tokusuhouh30-3.html>

### 表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並\***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・**多\*\*\***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 6 いちご（本ぼ）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	
炭疽病	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」( <a href="#">参照1</a> )を参考に防除対策を実施する。 ・被害株は抜き取って適切に処分する。
ハダニ類	並	○10月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・保温開始前後（ミツバチ等導入前）に防除を徹底する。
<b>【共通注意事項】</b> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

### 表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並\*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・多\*\*\*：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。



7 茶

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワハダニ	並	○10月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：少(－) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・急増することがあるため、発生状況に注意し、休眠期に入る前に薬剤による防除を実施する。
ツマグロアオカスミカメ	やや少	○10月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・常発園や多発した園では、産卵のために成虫が茶園に再飛来する10～11月に防除を行う。越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減効果がある。
<p><b>【共通注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。  
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。  
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並\***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並\*」と示しています。
- ・ **多\*\*\***： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多\*\*\*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。



(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和5年10月19日発表)

出典：気象庁ホームページ ([https://www.jma.go.jp/longfcst/103\\_00.html](https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html))

<予報のポイント>

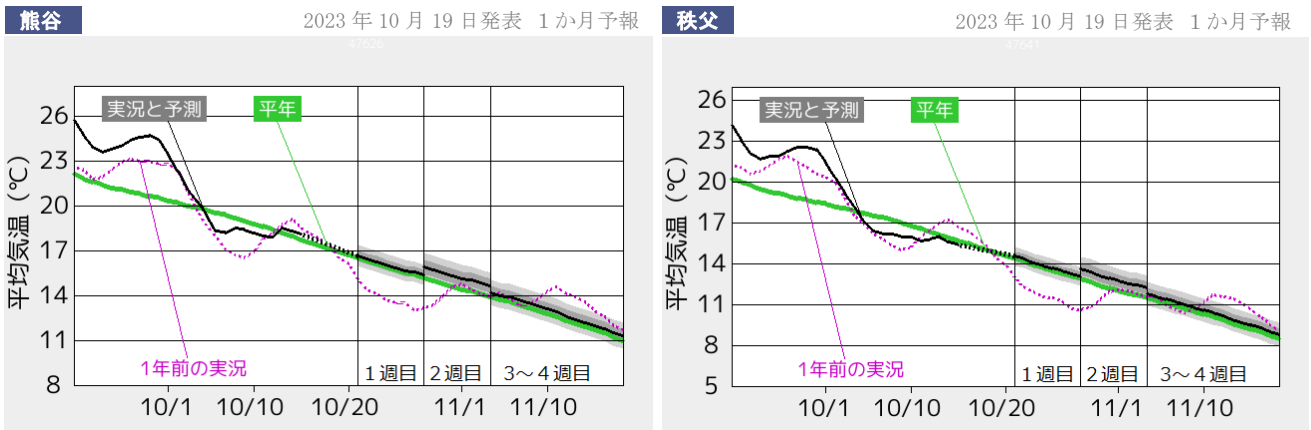
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に2週目は、気温がかなり高くなる可能性があります。
- ・高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気 温】 関東甲信地方	20	30	50
【降 水 量】 関東甲信地方	40	40	20
【日照時間】 関東甲信地方	20	40	40

凡例：  低い (少ない)  平年並  高い (多い)

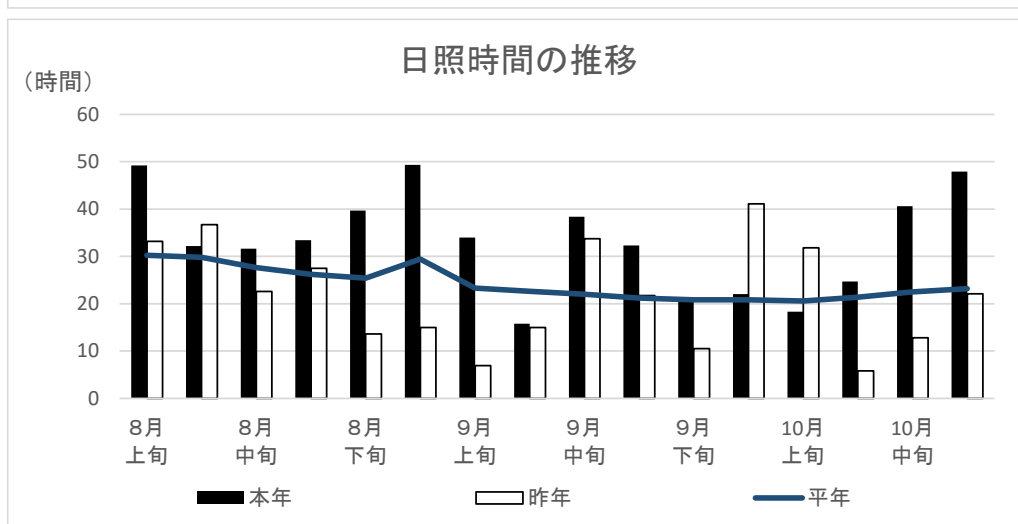
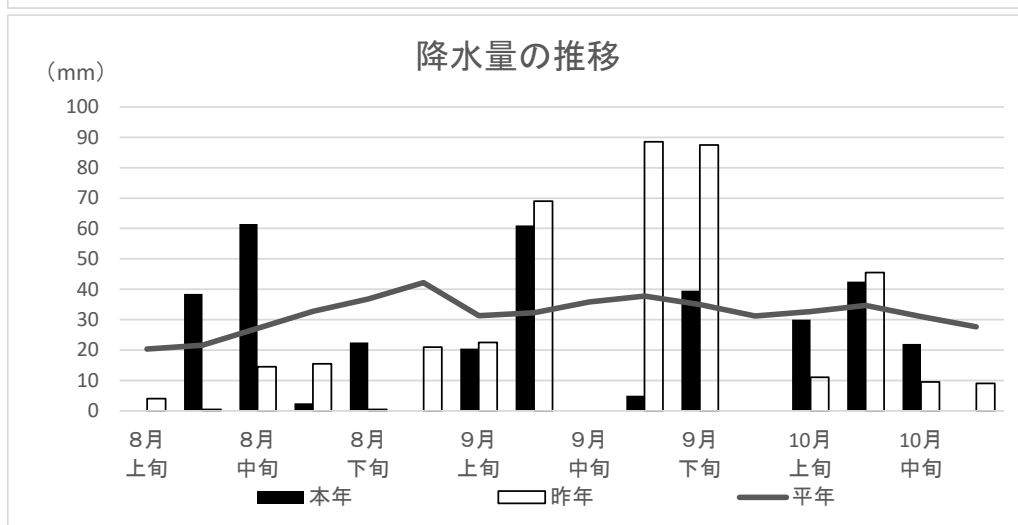
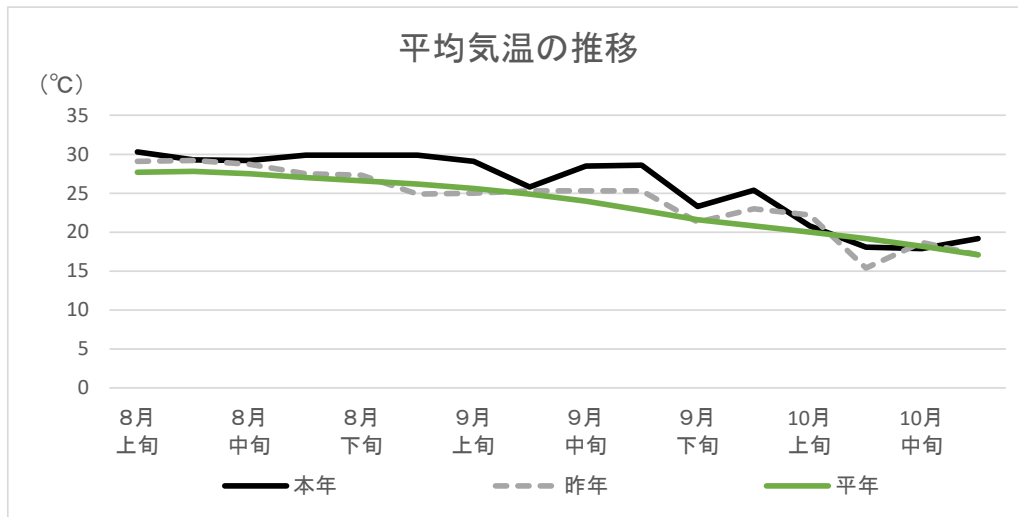
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)**   
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ)**   
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網かけで、70%の幅を薄い網かけで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線)**   
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)**   
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先  
 埼玉県病虫害防除所  
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784  
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663  
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>